

きた天竜川は、太平洋へと注ぐ大河であり、信濃の国の広大さをあらためて実感させるものでした。

病院内の私の部屋には、「信濃の国は十州に…」で始まる『信濃の国』の歌詞と墨絵を毛筆で描いた書画を飾っております。これは



前任地である北信総合病院の患者さんが書かれた貴重な作品であり、この南信の地にも飾る機会をいただいたことを大変ありがたく思っております。

今回の下伊那厚生病院への赴任は、あらためて信濃の国の広さを実感する機会となりました。

地域の健康増進

JA長野厚生連は、第二次世界大戦直後、「農村医療」の名のもと、当時の病と貧困に苦しむ人々の健康を守るために設立されました。医療環境が十分でなかった時代に、単に病を治すことにとどまらず、「農村健診」として医療者が地域に直接出向き、健康診断を行うという取り組みを、全国に先がけて実践してきたのが長野厚生連です。

現在においても、厚生連病院の医療活動の大きな柱の一つとして、保健予防活動は重要な使命となっております。

私が担当するのは、長野厚生連病院の一つである下伊那厚生病院において、主に保健予防活動に従事する健康管理課であり、健診センターおよび人間ドックの運営を担っております。

自己覚症状を有する方の病気を特定し、治療を行う一般診療とは異なり、健診や人間ドックは、症状の



ない方々も含めた地域住民の皆様を対象に、健康寿命の延伸を目的として実施されるものです。生活習慣病の予防と早期発見、そしてがんの早期発見・早期治療を大きな柱として、保健予防活動を進めてまいります。

現在では、あえて「農村」という言葉を強調する必要はないのかもしれませんが、しかし、病院の果たすべき役割は、皆様の健康増進に貢献することであり、地域の健康水準の向上は、地域社会の活力を高め、この地に暮らす方々の幸福感や満足感の向上につながるものと考えております。

今後とも、皆様のご理解とご協力、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。